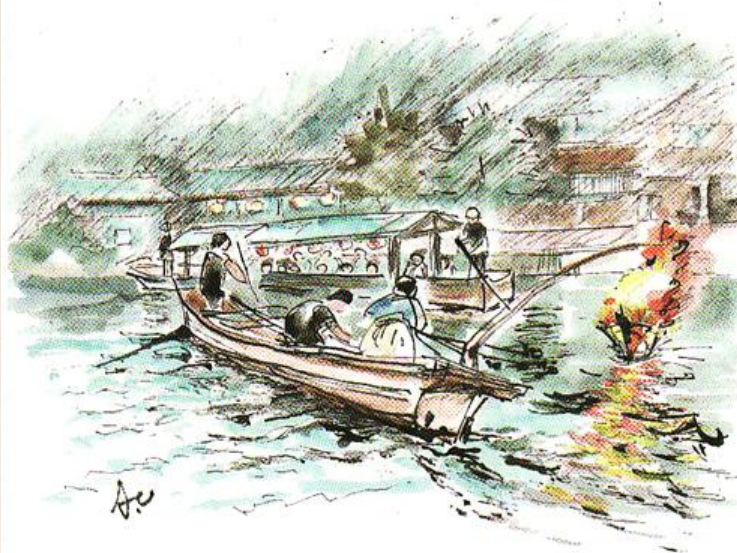


宇治川の鶺鴒^{うか}

通勤途中の車のラジオから、宇治川の川開きの紹介があった。晴れ間を拾って宇治川の鶺鴒を楽しんだ。宇治川大橋を渡ると風は爽やかで、早くも初夏の宵を感じた。宵が深まった午後7時ごろ、両岸に係留されていた屋根つき観覧船数隻が観光客で埋まった。しかし外国人はほとんど居ない。関係者に聞くと、震災以降は激減したという。宇治川大橋近くに陣取った鶺鴒匠を追って観覧船が困む。女鶺鴒匠は「鶺鴒いは平安時代から親しまれている伝統的なイベントです」とガイド。赤々と燃える松明^{かいまつ}の下、川面に鶺鴒を数羽放った。2人の船頭に見守られ、鶺鴒匠の網さばぎで、鶺鴒はもぐりそして呑み込んだ鮎^{あゆ}を吐き出すと、観覧船はどっと沸いた。平和なひとときである。



宇治市宇治塔川